

令和 6 年度 事務事業一覧表(シート作成成分を除く)					担当課	生涯学習課	担当G	社会教育グループ	作成日	令和 6 年 7 月 1 日	作成						
振興計画体系					総合戦略体系	事業名	事業目的	事業内容	令和6年度 事業費(千円)				実施状況	成果	課題	今後の方向性	
									国県支出金	その他 特定財源	一般財源 (志基金含む)	合計					前年度比
5	2	2	3	5		社会教育委員の会 開催事業	社会教育に関する諸計画 の立案、教育委員会の諮問 に応じ意見を述べ、また、必 要な研究調査を行う。	・委員の委嘱、報酬及び費 用弁償伝票処理、会議運営 (年2回)等 ・県、地区の社会教育委員 連絡協議会へ出席 ・公民館運営審議会委員と 兼務			313	313	△ 100	会議を年2回開催し、生涯学 習課が行う事業や諸計画に ついて、実施状況や事業に 対する意見聴取を行った。	社会教育に関する諸計画の 立案や教育委員会から諮問 を受けた際の答申等、社会 教育行政の現状や計画に対 する意見を聴取し、事業の成 果や次年度計画に活用し た。	年2回の会議の中で、社会 教育行政の現状に対する意 見をいただき、次年度計画 や事業に活用して行く必要 がある。	継続
5	2	2	4	1		高齢者学級開設事 業	高齢者(65歳以上)の方 々が心身の健康を保持し、い きがいと潤いのある人生を 創造していくため。	・21の高齢者学級の参加者 募集 ・健康教室、料理教室、交 通安全教室等の学習実施 等			598	598	0	高齢者学級の開設により、 各種研修会、研修視察等 の実施により、高齢者の交 流・生きがいがいづくり等、 高齢者が学ぼうとする熱意 と健康意識が高まった。	学級生が学ぼうとする熱意 と健康を高めようとする意 欲が高まり、市民が「いつ でも、どこでも」生涯にわ たる学習活動の推進が図ら れた。	高齢化・過疎化等により参 加者が減少傾向にあること から、今後、研修内容の充 実や事業周知により参加者 確保を図る必要がある。	継続
5	3	1	4	1		はたちの集い開催 事業	20歳の門出を祝うととも に、成人者に大人としての自 覚と責任を認識してもらい、 郷土の良さを再確認すること により地域活動の推進を図 る。	・新成人への案内・周知 ・実行委員の募集 ・実行委員会の運営 ・式典等の運営 等			666	666	△ 170	成人年齢の引き下げによ り、式典の対象は20歳のま ま、式典の名称を「はたちの 集い」に変更し開催した。 対象者の約70%が参加し た。	新型コロナウイルス感染症 の予防対策を行う中での開 催であったが、参加者の協 力のもと落ち着いた雰囲気 での式典となり、旧友との再 会を喜び合う姿があちこち で見られた。	毎年、実行委員を募集して いるが、その年で応募状況 にバラツキがある。また、 実行委員会が中心となって 内容検討や当日の運営に関 わり、新成人が主体となって 進める必要がある。	継続
5	2	2	3	5		PTA連絡協議会支 援事業	単位PTA相互の緊密な連 絡と協力により、本市PTA 連絡協議会の健全な発展を 図るとともに、家庭・学校及 び社会における教育の振興 に協力し、園児・児童生徒 の福祉を増進する。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資 料作成や助言、活動支援 等			669	669	0	総務部会、理事会、専門部 会、総会、PTA会長会、母 親部会等の開催や食育レン ビコンテスト、新聞発行等 の活動を行った。	学校、家庭、地域が一体と なることが期待される中で、 PTA活動はその重要性を増 しており、各PTA、会員相互 の連携や情報交換、資質向 上等が図られた。	会員の資質向上を目的に 様々な講演会等へ参加要請 や案内をしているが、参加 者の確保が難しく内容の見 直しや周知の手法を検討す る必要がある。また、各ブ ロックの活動の在り方につ いても検討する必要がある。	継続
6	2	2	4	1		地域女性団体連絡 協議会支援事業	女性が地域活動に積極的 に参加し、会員相互の親睦 を図るとともに、明るく住 みよい郷土の振興を図る。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資 料作成や助言、活動支援 等			804	804	0	グラウンド・ゴルフ大会、ふ るさとを興す県女性大会、 曾於地区及び県地域女性連 絡会等へ参加した。	女性が地域活動に積極的に 参加し、会員相互の親睦を 図るとともに、明るく住み よい郷土の振興を図ることが できた。	会員数の減少や組織運営の 課題があることから、会員 募集の周知や事業内容の見 直し等により、魅力ある協 議会づくりを検討する必要 がある。	継続
5	2	2	3	5		青少年育成市民会 議支援事業	市内の青少年育成組織の 連絡提携と活動促進を図 り、青少年の健全育成を総 合的に推進する。	・委員の委嘱、謝金伝票理 理、会議運営(年1回)等			164	164	0	青少年育成市民会議を年1 回開催し、青少年育成組織 の連絡連携と活動を促進 し、青少年の健全育成が図 られた。	会議の中で、各組織の代表 による、様々な意見や提言 を取りまとめ、青少年の健 全育成に資するため各学 校へ提言として広く周知が 図れた。	少子化・過疎化により、 児童生徒が減少し、また、 核家族化等により地域と のつながりが希薄になって きていることから、青少年 育成に関わるの意識啓 発が図る必要がある。	継続
5	2	2	3	5		子ども会育成連絡 協議会支援事業	地域の子ども会育成者が 連携・協力し、子ども会活 動の充実とともにリーダー の育成し、子どもの健全な 育成を図る。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資 料作成や助言、活動支援 等			474	474	71	役員会、総会の書面開催、 単位子ども会行事への各 助成金交付、単位子ども 会員の保険加入等を実施 した。	単位子ども会の活動を支援 することで、地域間・世代 間交流、青少年健全育成 が図られた。	少子化・過疎化により、 年々単位子ども会が減少 しており、単位子ども会 の合併や校区での子ども 会活動を検討しながら、 活動の充実を図る必要 がある。	継続
2	6	2	3	5		校外生活指導連絡 会支援事業	市PTA連絡協議会、各学 校及び関係機関団体が協 力提携し、校外における 生活指導の充実を図る。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資 料作成や助言、活動支援 等			50	50	0	各学校の連携を図り、長 期休暇期間を中心に、愛 のバトロール、防災無線 放送での周知等を実施 した。	各学校の連携により、長 期休暇期間を中心に、愛 のバトロール、防災無線 放送での周知等を実施し、 青少年の非行防止や事故 防止対策が図られた。	青少年を取り巻く環境は、 携帯電話(スマホ)の普及 やインターネットによる 情報の氾濫など大きく変 化しており、それらに関 するルールづくり等が必 要となっている。	継続
5	2	1	3	5		生涯学習まちづく り	市等の公的機関が行って いる事業について、市民 の方々に理解し、身近に 感じていただくことを目 的として	行政の仕事を市民に広く 認知してもらうために、 市民からの要望に応じ、 職員が講師となり、出 前講座という形			44	44	0	年間100回を超える講座 が開催されている。	市民に対し、市政の状況 が広く伝えられ、理解が 進んでいる。	特になし	継続

振興計画体系			総合戦略体系		事業名	事業目的	事業内容	令和6年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性
								国県支出金	その他 特定財源	一般財源 (志基金含む)	合計	前年度比				
5	2	1	3	5	青少年音楽祭関連事業	児童、生徒、市民の音楽を通して交流による青少年健全育成に努め、身近な交流を通して様々なジャンルの音楽活動で豊かな感受性を培う。	市内小中学校及び地元高校の吹奏楽部等が一堂に会し、練習してきた成果を発表するとともに、お互いに鑑賞しあうことで、技術の向上と交流を深めている。			842	842	0	年1回、技術の向上を目指したみやまコンセール講師陣による技術指導のほか、年度末に一堂に会して音楽祭を実施している。	学校間、世代間を超えた交流が音楽を通して図られている。	コロナウィルス感染症対策	継続
5	2	3	4	5	学校体育施設開放事業	市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として、学校体育施設を学校教育の支障のない範囲で開放し、市民が健康的な生活を営むことにつなげる。	地域住民のスポーツの普及・発展と生活化を図るため、学校の体育施設を一般の利用に開放する。			315	315		市内の小中学校21校が、学校施設開放運営協議会を設置し、施設の開放を行っている。	令和4年度においては、延べ62,132人の利用があり、市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として、施設が利用された。	現在の施設利用については無料である。しかし、受益者負担の必要性もあり有料化の検討も必要である。	現状維持
5	2	3	4	5	地域海洋センター連絡協議会参画事業	連絡協議会主催会議等に職員が参加し、指導能力の向上、実践することで生涯スポーツ振興や健康づくりに寄与する。	地域海洋センター連絡協議会主催の会議等に参加し、研修等を受講し、今後の活動に活用する。				0		南九州ブロック地域海洋センター連絡協議会総会、B＆Gスポーツ県大会、南九州ブロック地域海洋センター・海洋クラブ責任者会議等に参加している。	他のセンターや海洋クラブ、指導者協議会等の情報交換、B＆G財団本部職員による助成事業説明や指導者表彰等、指導者の資質向上にも繋がっている。	会議や研修については事務局の出席であるが、施設については、現在指定管理制度を導入しており、今後指定管理者で各資格取得についても検討が必要となっている。	現状維持
5	2	3	4	5	志布志ジョガー駅伝競走大会事業	駅伝を通じて、走る喜び走る楽しさを味わいつつ、参加者の連携と親睦を深める。また、スポーツ精神の高揚と青少年の育成と健康の増進を図ることを目的とする。	心身共に明るく気迫に満ちたたくましい青少年の育成と、チームで走る楽しさ、喜びを味わい、併せて参加者相互のふれあい、参加者の体力向上及び健康増進を図るため5区間の駅伝を実施する。			255	255		小学生の部と中学生以上の一般部の部を開催し、例年100チーム弱の参加がある。	小学生の部においては、スポーツ少年団の参加が多く、普段とは違う競技を通してチームの連携を深めることができる。一般の部の中学生・高校生については、競技力の向上が図られる。社会人については、運動のきっかけづくり	今後は、新たな部門を設定し、幅広い年代からの参加者を増やしていく必要がある。	現状維持
5	2	3	4	5	志布志市スポーツ少年団本部運営支援事業	スポーツ少年団活動の充実、指導者・母集団の資質向上が図り、単位団や団員数の増加につなげる。	市スポーツ少年団本部に32団体(令和3年度末)が加盟しており、その団体の統括、少年団登録事務、活動助成を行っている。			928	928		市スポーツ少年団本部に32団体(令和4年度末)が加盟しており、本部常任委員会・指導者協議会の開催及び各種研修会等を開催されている。	本部常任委員会・指導者協議会の開催及び各種研修会等を開催されている。資質向上が図られている。	大会数が多く競技志向が強くなっており、県スポーツ少年団本部の示す週3回以内1日平均2時間以内の原則が遵守されていない団体もある。大会が多いため、学校・PTA活動や子ども会・地域活動等との活動バランスが	現状維持
5	2	3	4	5	志布志大相撲後援会運営事業	志布志大相撲後援会の総括運営にあたり円滑かつ効率的に実施することを目的とする。	国技相撲において志布志市出身の力士が、より精進活躍できるよう協力、支援する。			324	324		九州場所の応援ツアーや、力士の帰郷に合わせて、激励会を実施している。	千代丸・千代鳳閣の応援ツアーの実施や激励会の開催等支援ができています。	商工会への事務局移管を検討する。	現状維持
5	2	3	4	5	海洋クラブ運営支援事業	カヌー教室を通じて得られる海・船・海洋環境の知識や、集団活動による社会性の習得することにより、スポーツ活動や青少年健全育成の推進を図る。	カヌーなどの海洋性レクリエーション活動を通じて、海・船・海洋環境に係る理解を深めることを目的に、カヌー教室を開催しており、県大会にも参加している。			149	149		例年15名弱の子どもたちが参加し、カヌー教室を通じて、集団活動による社会性を習得している。	令和4年度においては22名が参加し、カヌー教室だけでなく、SUPやニュースポーツ等の体験もできた。	広報活動をおこない参加者の増加を図る必要がある。	現状維持
5	2	3	4	5	志布志みなとサッカーフェスティバル事業	志布志みなとサッカーフェスティバルを開催するために必要な一切の準備、大会の総括運営にあたり円滑かつ効率的に実施することを目的とする。	市内外のサッカー部の高校生が一同に会し、サッカーフェスティバルを開催することにより、市民のスポーツに対する意識の高揚と、参加チームの技術の向上発展を図るとともに、市内への合宿誘致を図る。			810	810		例年、8月1日からの12日間で100チーム近くが参加し、切磋琢磨している。参加校は、九州管内だけでなく、さんふらわあを利用して、関西方面からの参加も多い。	サッカーの町として志布志＝サッカーを目指し、市民のスポーツに対する意識の高揚が図られ、参加高校においては技術の向上が図られる。併せて参加校による宿泊や弁当購入等、地域への経済効果も非常に大きい。	現状維持	

振興計画体系			総合戦略体系		事業名	事業目的	事業内容	令和6年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性
								国県支出金	その他 特定財源	一般財源 (志基金含む)	合計	前年度比				
5	2	3	4	5	伊崎田相撲大会実施事業	地域の五穀豊穡、家内安全を守る地域の伝統行事を継承するとともに、地区民の親睦、融和と青少年の健全育成を図る。	小学校の部、中学校の部、一般の部による相撲大会及び赤ちゃんの土俵入りを実施する。			180	180		小学校の部、中学校の部、一般の部を開催している。また、赤ちゃんの土俵入りや化粧まわしコンクールを実施している。	地域の伝統行事を通して、地区民の親睦、融和と青少年の健全育成が図られている。	現在の支出は、補助金として行っているが、報償費としての支出やコミュニティ協議会助成金との統合を検討する。	現状維持